

# シングルインカム / ダブルインカム のライフスタイル

～既婚女性にとって就労のハードルは“不安”～

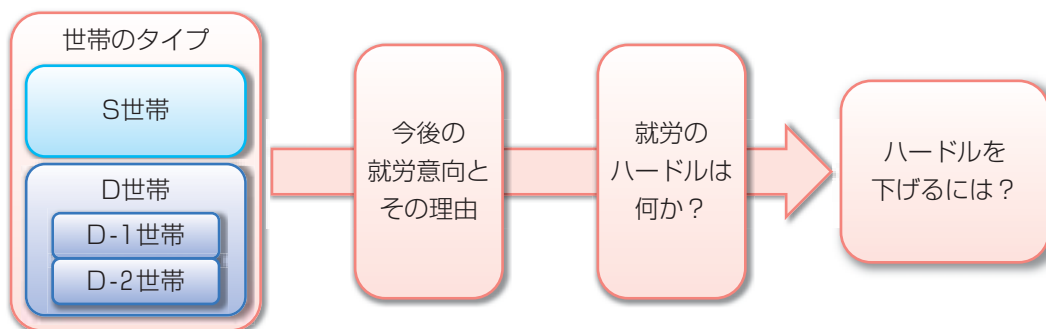
## はじめに

人手不足が大きな課題となる中、女性や高齢者の能力活用・就業促進、副業の容認など多様な働き方の模索が続いている。そこで、本調査では既婚女性の今後の就労に対する意識とその背景に焦点を当てた。人手不足に悩む企業の一助になれば幸いである。

## 【調査結果の概要】

1. 非就業の既婚女性の就労意欲は64.3%と6割を超える。ハードルとなっているのは、“不安”。  
子供の保育や急病時・学校行事等との兼ね合い、自身の健康、親の介護との両立など家族の都合にどの程度合わせられるか、という不安である。
2. 今後仕事をしたい、もっと働きたい理由は「自由になるお金を増やす」「老後への備え」「子供の教育費」が上位を占め、経済的要因が大きい。
3. 世代間の相互サポートに最も関わっているのは60代女性。家族間のサポートに代わる家事代行等の利用可能性は2～3割にとどまるが、利用形態を工夫すれば若い世代の利用可能性は高まるのではないかとと思われる。

## 【分析のスキーム】



S世帯（シングルインカム世帯）：夫婦のどちらかのみが働いている世帯  
 D世帯（ダブルインカム世帯）：夫婦のどちらも働いている世帯  
 D-1世帯：夫婦のどちらか、あるいはどちらも非正規職員（パート、派遣、契約等）及びその他  
 D-2世帯：夫婦のどちらも正規職員（フルタイム）もしくは自営業

## 【本調査の概要】

1. 調査対象：熊本県内在住の既婚男女
2. 調査期間：2018年10月19日～23日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査  
(調査会社：(株)マクロミル)
4. 有効回答：787人

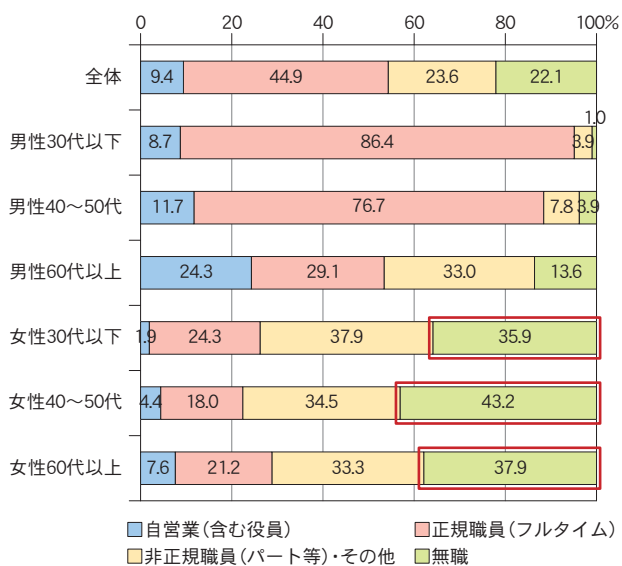
## 【回答者の内訳】

	人数			構成比(%)		
	男性	女性	計	男性	女性	計
30代以下	103	103	206	13.1	13.1	26.2
40代	103	103	206	13.1	13.1	26.2
50代	103	103	206	13.1	13.1	26.2
60代以上	103	66	169	13.1	8.4	21.5
計	412	375	787	52.4	47.6	100.0

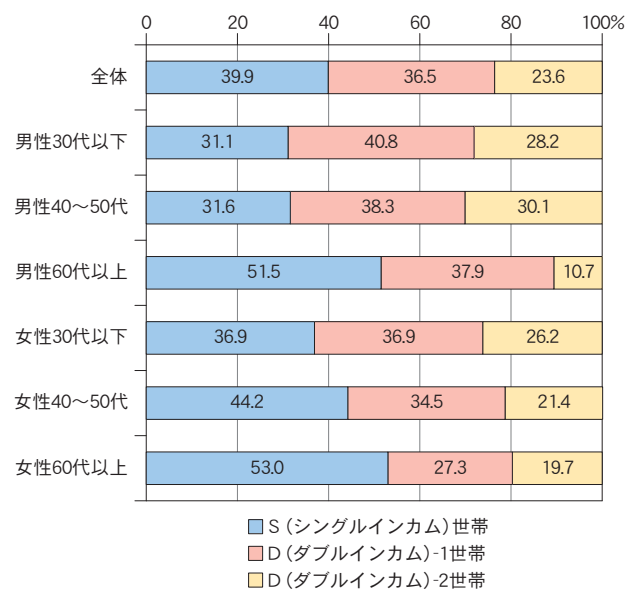
## 1 就業状況～D世帯が約6割、S世帯が約4割

- 既婚女性（以下、女性）の6割は何らかの仕事に就いており、非就業が4割前後である。40-50代で非就業の割合が比較的高い。再就職予備軍の割合は40-50代で高いと言えよう（図表1）。
- 既婚男性では60代以上で正規職員が3割弱にとどまり、非正規職員が3割強である。60歳定年後の働き方の変化が見て取れる（図表1）。
- 世帯の就業状況では、S世帯とD-1世帯、D-2世帯の割合はほぼ4：4：2となり、D世帯の合計は約6割である（図表2）。共働き世帯が多いことを物語る。

図表1 就業状況



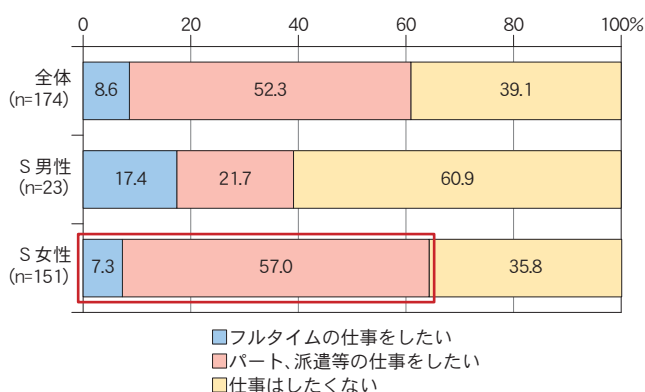
図表2 世帯の就業タイプ



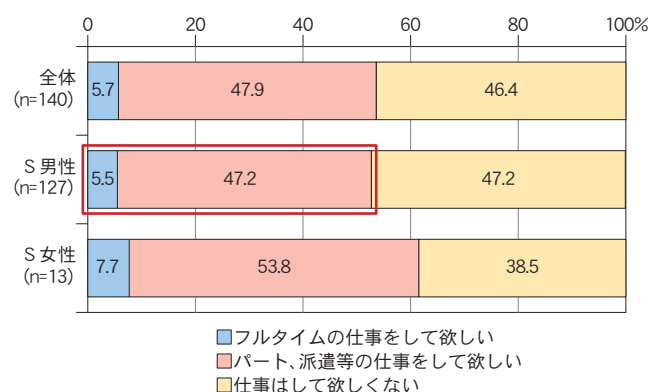
## 2 S世帯で非就業女性の就業希望、64.3%

- S世帯の非就業女性の就労意欲は64.3%と6割を超え、57.0%が今後「パート、派遣等の仕事をしたい」と望んでいる（図表3）。フルタイムよりもパートや派遣を望む方が圧倒的に多い。
- またS世帯では配偶者が就労することを望むのは、男性では52.7%とほぼ半数である（図表4）。
- 所謂、専業主婦世帯としてみると夫である男性よりも妻である女性の方が就業に前向きなようである。

図表3 S世帯で本人（非就業）の今後の働き方



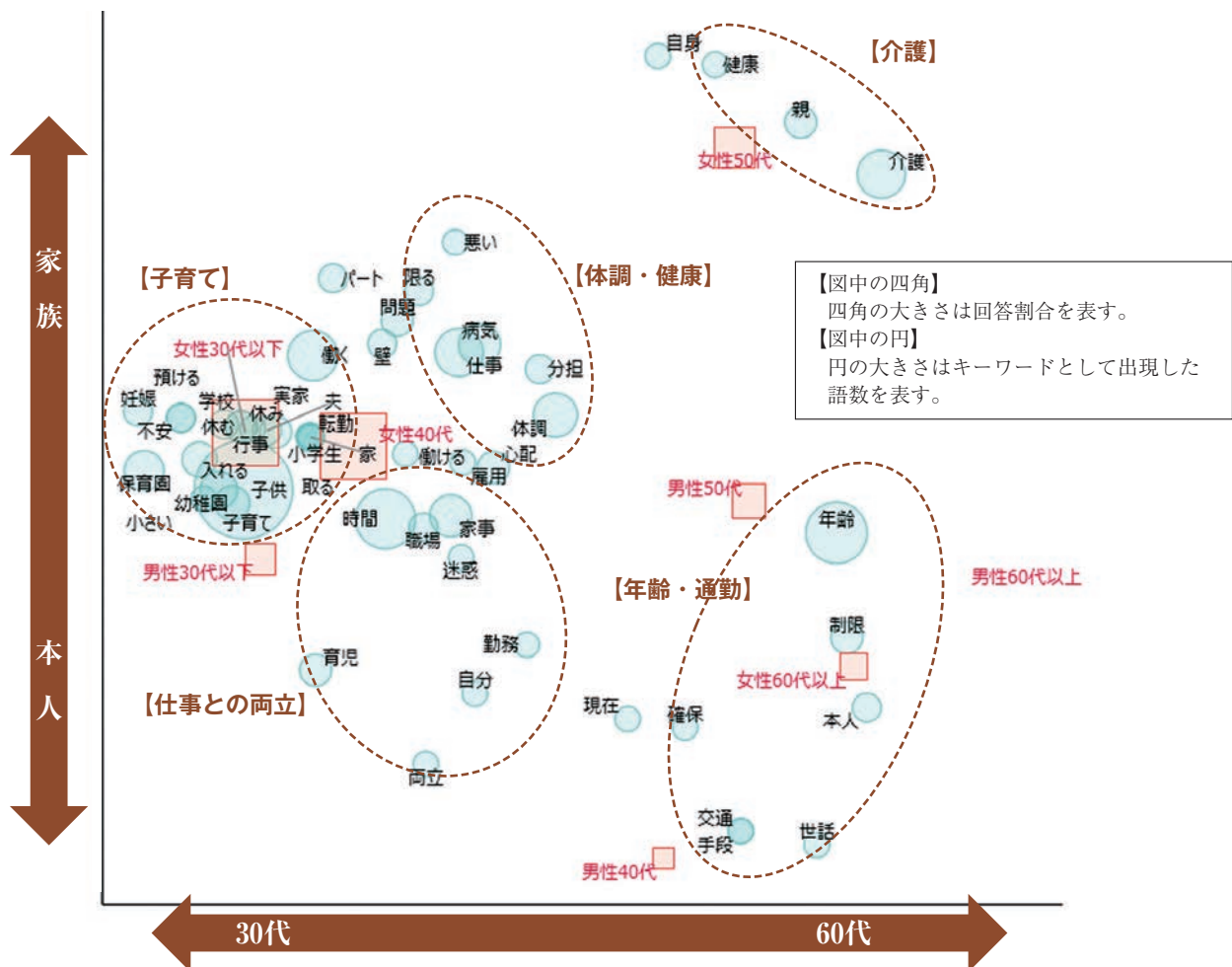
図表4 S世帯で配偶者（非就業）の今後の働き方



### 3 就業のハードルは何か？

- 現在非就業であるが、今後仕事をしたいと考える既婚女性にとって就業のハードルは、子供の保育、急な病気時に対応できるか、といった子育てに関する不安と、介護に関する不安が大きい。
- 不安が現実となった場合、職場に迷惑をかけるのではないかと懸念しており、就業前の漠然とした不安がうかがえる。
- 親などを頼れない場合、勤務時間のフレキシビリティや支援サービスとの連携、在宅ワークなど、事業者側でどのように不安を解消するかがポイントとなりそうだ。
- 「年齢」へのコメントは40代からみられ、50代以上では大きなハードルと捉えているようだ。

図表5 S世帯で「仕事をしたい」「(配偶者に) 仕事をして欲しい」人が感じている就業のハードル



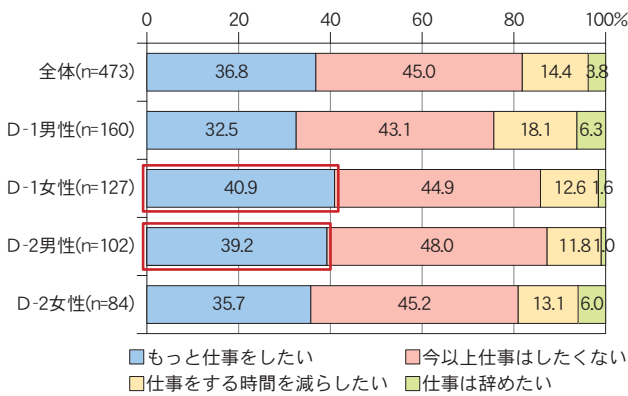
\* S世帯で、「仕事をしたい」もしくは「(配偶者に) 仕事をして欲しい」と回答した人に、今後仕事をするためにハードルとなりそうなことを自由回答で尋ね、その内容を「KH Coder」を使用して分析した。

年代・ライフステージにより、ハードルの内容が異なるのが分かる。中でも30代は男女とも「子供」に関する事柄が多い。「子供の手が離れたので仕事を再開したい」という女性は多く、「手が離れる」前後のハードルの内容が見て取れる。また、パソコン操作やITスキル不足に関するコメントもみられ、不安を解消して一歩踏み出せるか、という状況もうかがえた。

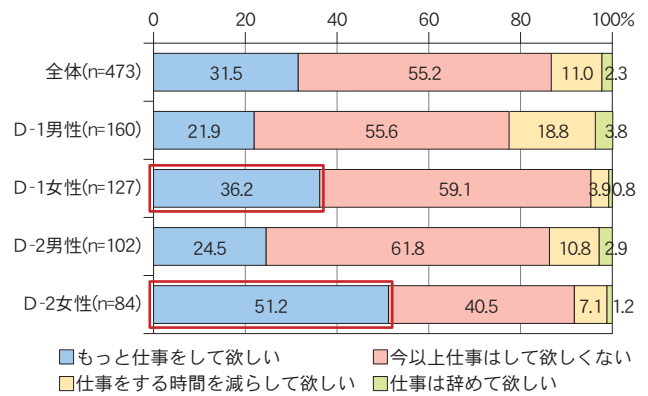
## 4 D世帯の今後の働き方

- D世帯の今後の働き方に対する本人の意向では、「もっと仕事をしたい」はD-1世帯の女（40.9%）、D-2世帯の男性（39.2%）でやや高い（図表6）。
- D世帯では配偶者に対しては、女性の方が「もっと仕事をしたい」と考える割合が男性に比べて高い（図表7）。収入面への不安があると思われる。

図表6 D世帯で本人の今後の働き方



図表7 D世帯で配偶者の今後の働き方

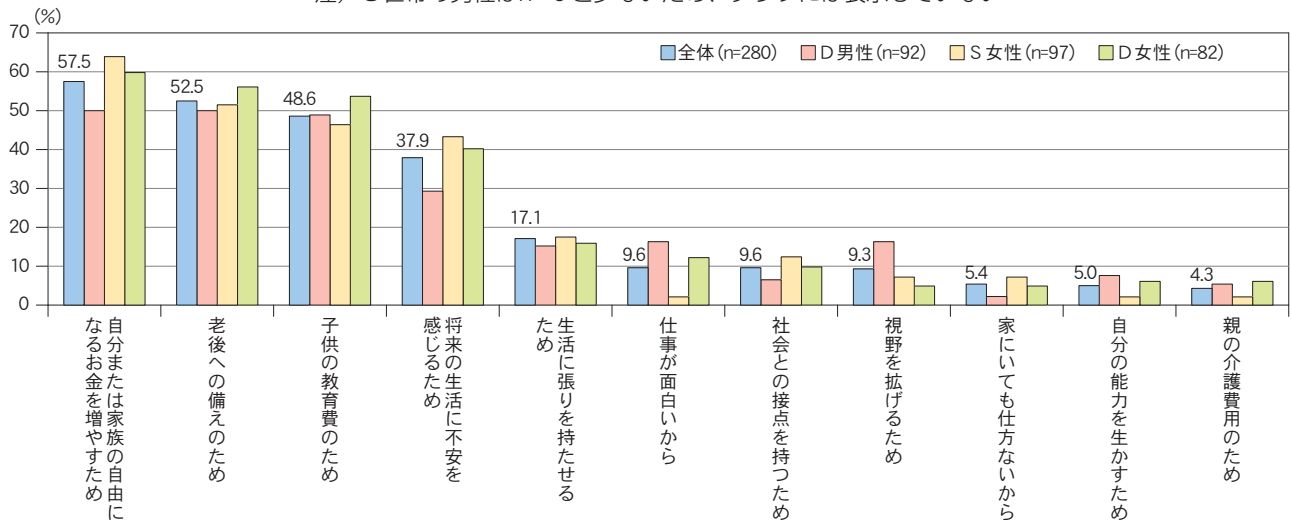


## 5 「今後仕事をしたい」(S世帯)、「もっと仕事をしたい」(D世帯) 理由～「自由になるお金」

- 「自分または家族の自由になるお金を増やす」が57.5%で最も多く、「老後への備え」(52.5%)、「子供の教育費」(48.6%)、「将来の生活に不安を感じる」(37.9%)と続く。経済的理由が大きい(図表8)。
- 経済的要因以外はあまり高くないが、「生活に張りを持たせる」(17.1%)に続いて「仕事が面白い」「社会との接点を持つ」「視野を拓げる」などが1割近い。

図表8 「今後仕事をしたい」「もっと仕事をしたい」と回答した理由(複数回答、3つまで)

注) S世帯の男性はn=9と少ないため、グラフには表示していない



【仕事でなくてもちょっとしたお小遣いをゲット】

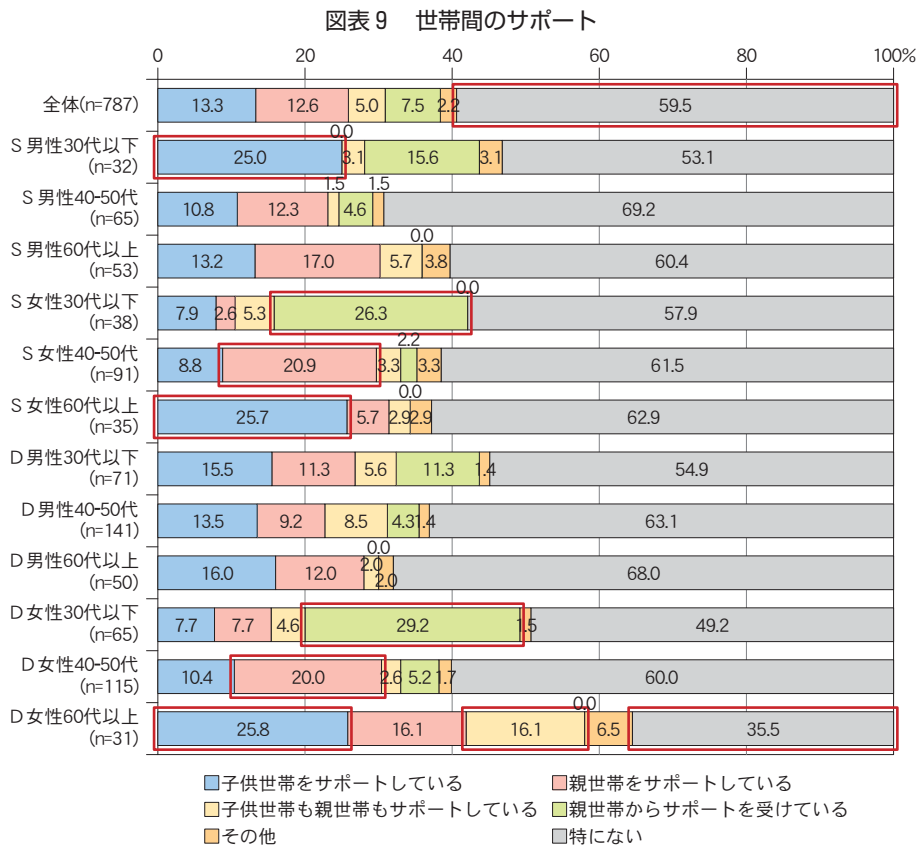
ネットアンケートやネットオークションなどで小遣いを得ることが「よくある」は7.0%、「たまにある」は28.8%で、全体の約1/3は何がしかの収入があった。

金額は1ヵ月平均で「5,000円以下」が6割を超え、1万円以上も2割に達する。男性の方が金額は多く、「株」「投資信託配当」などの回答もみられた。

数は少なかったものの「副業」「在宅ワーク」という回答もあり、働き方の多様化が熊本でも始まっていることが感じられた。

6 世帯間のサポート～ライフステージによって相互にサポートするも1/4程度にとどまる

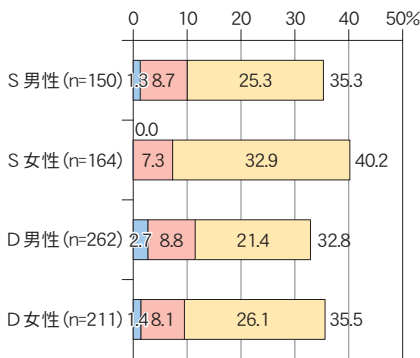
- 全体では「特にない」が59.5%と多いが、D世帯の60代以上の女性で35.5%と低いのが目立つ。「子供世帯も親世帯もサポートしている」が他に比べ高く、仕事に加えて親の介護や孫の世話などを担っているのうかがえる（図表9）。
- S世帯・D世帯の女性では30代以下では「親からのサポート」が高く、40-50代では「親世帯をサポート」が、60代以上では「子供世帯をサポート」が高い。就業状況による差よりも年代による差が大きいのは、ライフステージの差とも言える。
- この中でS男性の30代以下で「子供世帯をサポート」が高いのは、子供のいる兄弟姉妹等の世帯との行き来などが含まれるのではないかと思われる。



## 7 家事サービスの利用状況と今後の利用意向～現状の利用は少ないものの、関心はありそう

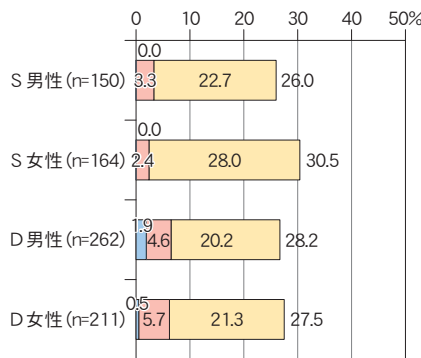
- 3つのサービスを尋ねたが、「現在利用しており、今後も利用したい」はいずれも極めて少ない。
- 今後の利用意向では、「年に1～2回程度のハウスクリーニング」、「定期的な清掃、調理などの家事代行」で「利用するかもしれない」が2割強で、いずれもS世帯女性でやや高い（図表10、11）。
- 「育児手伝い」は就学前・就学中の子供がいる世帯で集計すると、S世帯男性で「今後利用してみたい」が1割を超えているのが目立ち、「利用するかもしれない」はD世帯の女性の関心がやや高い。D世帯の男性を除くと、子育て世帯では関心は高いと言えよう。
- 利用したい、利用するかもしれない理由としては（自由回答）、「専門家に自分のできないことをしてほしい」「苦手・面倒」「楽」「時間のゆとりが欲しい」「体力的に無理になれば利用するかも」「急な用事の時」「身近に頼る人がいない」などである。
- 利用しない理由（自由回答）は、「自分でできる」が多く、「他人を家に入れたくない」「お金がかかる」といった回答も目立った。経済的理由だけでなく心理的理由も大きい。

図表10 年に1～2回の  
ハウスクリーニング



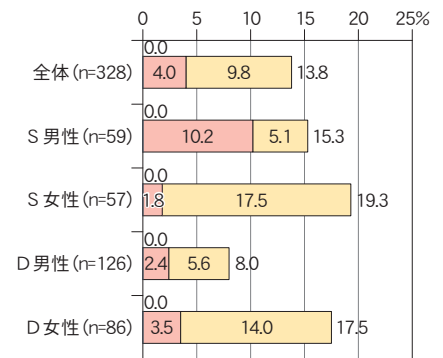
■ 現在利用しており、今後も利用したい  
■ 現在は利用していないが、今後利用してみたい  
■ 現在は利用していないが、今後利用するかもしれない

図表11 定期的な清掃、  
調理などの家事代行



■ 現在利用しており、今後も利用したい  
■ 現在は利用していないが、今後利用してみたい  
■ 現在は利用していないが、今後利用するかもしれない

図表12 育児手伝い（就学前・  
就学中の子供がいる世帯）



■ 現在利用しており、今後も利用したい  
■ 現在は利用していないが、今後利用してみたい  
■ 現在は利用していないが、今後利用するかもしれない

### 最後に

- 人手不足が経営課題になる中、現在非就業の既婚女性の能力を活用するには、子供が病気になったときや学校行事などで休めるか、といった就労前の不安を払しょくする必要があると思われる。
- 例えば仕事のマルチタスク化や短時間ごとの業務分担、テレワークの活用などが考えられよう。
- また、家事代行を提供するサービス事業者が法人と契約し、企業が福利厚生の一環として従業員が割安で利用できるようにする事例も出始めている。こうしたサービスも就業のハードルを下げることに関与すると思われる。